

2025年度 RDUF公開シンポジウム

2025年12月12日（金）

メタデータマッピング標準化 に向けたガイドラインの提案

叢艶 青木学聰 松原茂樹

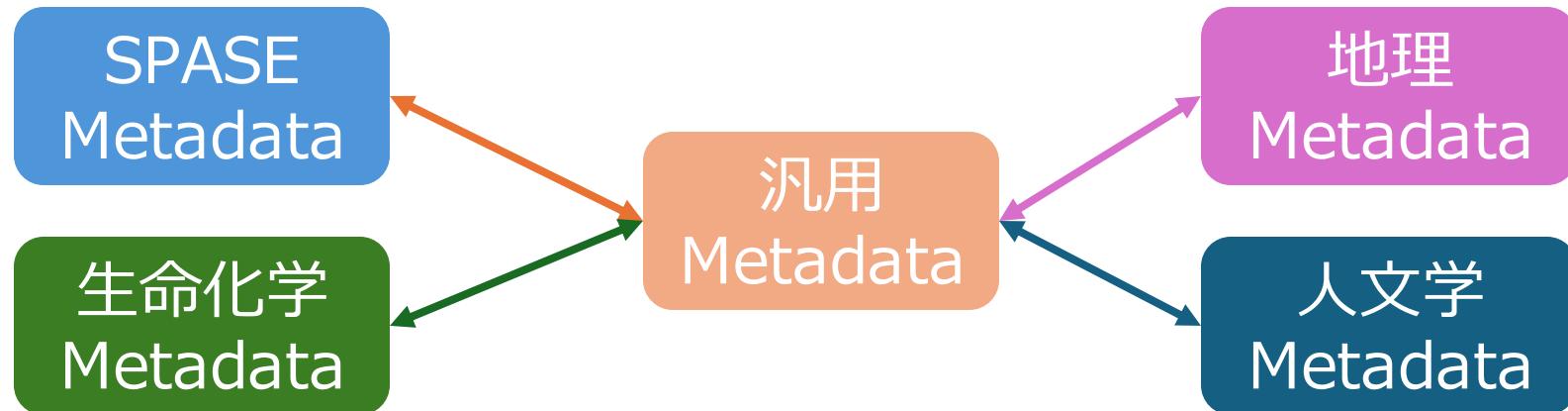
名古屋大学

研究データの現状



- 研究データは、分野ごとに異なるリポジトリで分散して保存されている
 - ✓ 例えば、生命科学のデータは専門機関で管理されている
- 医療機関などが生命科学のデータを利用したい場合、専門機関を個別に探す必要がある
- 分野ごとに多種のメタデータ形式が存在し、分野別のデータの相互利用が難しい

必要な解決策：統一的な作業方法



- 分野別メタデータから汎用メタデータへ、「多対1」で対応づける
 - ✓ 分野ごとの異なるメタデータを、[共通の枠組み](#)に、マッピングすることが重要である
 - ✓ 共通の枠組みとして、研究データを受け入れられる[汎用メタデータ](#)の採用が有効である
- メタデータマッピングの実践事例
 - ✓ 「IUGONET プロジェクト」：分野別メタデータであるSPASEから機関リポジトリ向けメタデータのJPCOARスキーマへのマッピング取り組みを実施した
 - ✓ 「エコシステム事業」：各分野メタデータを汎用メタデータへのマッピング作業を進めている

マッピング手順の普及と多様な利用者への展開

- ・ 分野別メタデータと汎用メタデータとの対応関係を体系的に整理する
- ・ 整理したメタデータの対応関係に基づき、マッピング手順のガイドラインを策定する
 - ✓ 作業の効率化、ノウハウの継承、説明担当者の対応力向上が図る
- ・ 今後の予定
 - ✓ ガイドラインは、研究者、図書館員、データ管理者など、幅広い利用者を想定している
 - ✓ より多くの分野で利用してもらうため、継続的に改善・普及活動を行う